２０２５年花だより－９

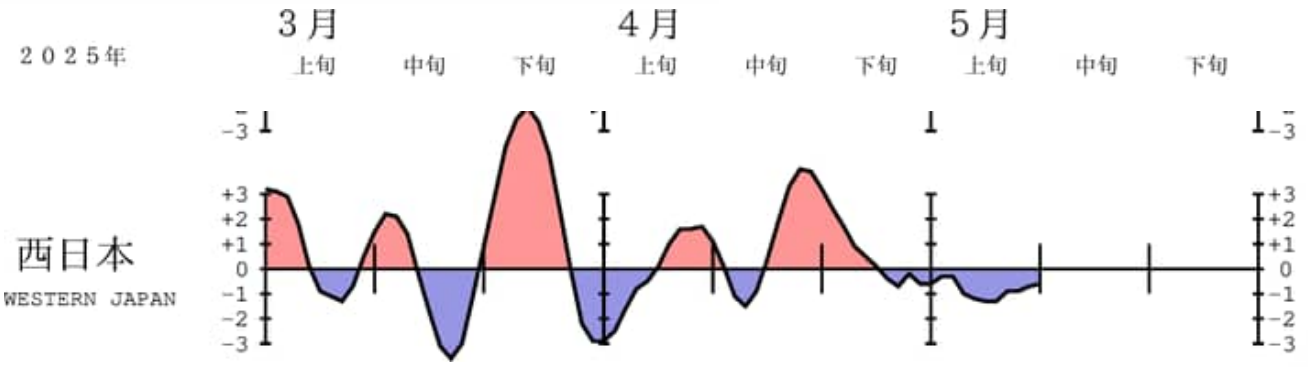
２０２５．５．１５

時は人を待たず。今年の花だより　７号を発信してからいつの間にか１月が過ぎ去ってしまいました。特に体調が悪くし近所の散策と観察を止めたわけではなく以前と変わらず毎日、７～８０００歩は歩いています。また、ボケ防止を目的として続けて来ている本花だよりも,気にはなりつつ言い訳がましくなりますが、5 月前半に MNC の 5 月観察会と、今年始めた科の「自然観察・基礎講座」の担当が重なった。両講座とも座学＋観察スタイルとし、内容は全く異なるのでテキストのリニュアルとプロジェクター用のスライド作りを優先させた為・・・出稿が遅れたというわけです。

両観察会とも晴天にめぐまれ無事終了したので、9 号を発行したいと着手致しました。例によって気象庁の発表している今春の気象の経緯と今後の見通しから書き下して行きます。

１．２０２５年の春季の気温経緯と今後の気象の予報（気象庁発表）

１－１．今年の春（３月～　）の西日本の気温の経緯



説明するまでもなく、上図は平年値に対して気温の高低を５日移動平均値（前後各２日を含む５日間の平均値）を平均期間の真ん中の日に表示されているものです。

３月下旬の季節外れの暖気で一気にソメイヨシノの開花が進みましたが、その後は花冷えで樹木の開花や開葉も遅れがちとなりましたが、4 月中旬以降の暖気で平年並みに追いつきました。4 月末から 5 月上旬にかけては曇りや雨の日が多く平年よりは若干気温は低めとはなっていますが、季節の歩みは平年並みであるように思います。

１－２．今後の３ヶ月間の気象予報（近畿地区）

少し古くなりますが、4 月 22 日に気象庁が発表した今年の 5 月以降 7 月までの３ヶ月間の発向こう３か月間 気象予報は下記の通りです。

・向こう３か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。

・向こう３か月の平均気温・気温　　低 10 並 30 高 60%　　高い見込み

・降水量：太平洋側　　少 30 並 30 多 40%　ほぼ平年並の見込み

なお、近畿太平洋側の月別の天候は下記のように発表されています。

・5 月　天気は数日の周期で変わり、平年と同様晴れた日が多いでしょう。

気温：低 20、並み 40、高４０%平年並みかやや高い

降水量：少 30、並み 40、多３０%　平年並み

・6 月　平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

気温：低１0、並み３0、高６0％　高い　　降水量：少 30、並み 30、多４0％　平年並み

・**7 月**　期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温：低 20、並み 30、高５0％　高い　降水量：少 30、並み 40、多３０％　平年並み

＊また、5 月 10 日に近畿地方の向こう１ヶ月間の気象予報が大阪管区気象台から発表されています。

・天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

・向こう１か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。特に、期間の前半はかなり高くなる見込みです。　　**気温：低 10 並 30 高 60%　　高い見込み**

・湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう１か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。太平洋側、降水量：少 20 並 40 多 40%　**平年並みか多い見込み**

・週間天気予報

第１週（５／10～16）　天気は数日の周期で変わるでしょう。

気温：低 10 並 20 高 **70**%　**高い見込み**

第２週（５／17～23）　天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

気温：低 10 並 20 高 **70**%　**高い見込み**

第３，４週（５／24～６／　天気は数日の周期で変わるでしょう。

気温：低 20 並 30 高 **50**%　**高い見込み**

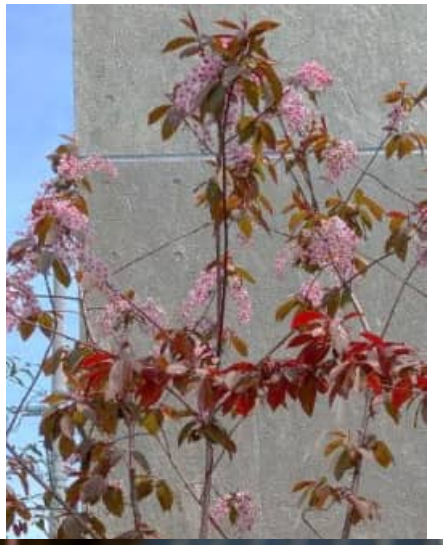
2. サクラの開花・結実

２－１．カスミザクラの開花

この附近でサトザクラを除いて最も遅く咲くサクラの種はカスミザクラであることは以前から書いて来ています。

近くの芦屋市翠ヶ丘のマンションの庭に植えられているサクラで写真のように１０ｍを超えるような成木です。この樹の存在を知ったのは、2022 年で既に満開日となっていました。記録では、4 月 11 日となっています。それ以降は開花日・満開日を記録して来ており、2023 年の開花日は 4 月 4 日、満開日が 4 月 11 日。昨年 2024 年は 4 月 9 日の開花、満開日は 4 月 13 日でした。今年の開花日は 4 月 10 日とほぼ昨年と同時期、満開日が 16 日となっています。昨年に比べ花期が長くなっているのは開花期の気温が低めであった為ではないかと思っています。なお、カスミサクラは花は白色で小型、ヤマザクラと同様に花と葉が同時に展開するので、満開時でも写真のような姿となっています。図鑑などでは、カスミザクラの開花期は遅く、4 月末~5 月となっていますが、地球温暖化の所為か 4 月中旬と早くなって来ているようです。

２－２．エゾノウワズミザクラ・ロゼア（*Padus racemosa* Gilib）



通常の散策路から外れて、最近丘陵を削って造成された、住宅地（西宮市高塚町）に立ち入ったときに見慣れない花を付けた樹が前庭に植えられているのを見かけました。例によって、「レンズ」で検索したところ上記の種名が出て来ました。念のため、Yahoo でこの品種名で検索したところ下記の記述が見られました。

「**エゾノウワミズザクラ**（蝦夷上溝桜）の花は前年枝に、通常 20～40 の花を総状につけます。花弁は丸く、桜のように先が分かれていません。蝦夷上溝桜は白花ですが、ロゼアはピンク色の花が穂咲きに咲く可愛らしい品種です。花は強い芳香があります。コロラータとも呼ばれます。1950 年代にスウェーデンで偶然発見されました。花色に加えて芽出しが銅葉なのも特徴です。日に良く当たった方が葉色は良くなります。

日本には近年入ってきたばかりで、あまり出回っていない希少品種です。」とのこと。

写真のように、記述と一致し間違いないようなので掲載致しました。

この附近では最近新開地の他、邸宅の建て替えなども多く、新築に伴い昔のように塀や垣根を巡らすよりも外周に庭木を植える家庭が増えて来ています。家主の選択か、植木屋の勧めなのか不明ですが、変わった品種も多く散策の目を楽しませてくれます。

２－３．ウワミズザクラ

ウワズミザクラなど山中にあっては珍しくもないでしょうが、庭木として植えられているのは如何でしょう。

しかも、当方の前の戸建て住宅の裏手の住宅の庭と正に目と鼻の先、週２，３度は散策途上で通っている道の石垣の上に植えられているのを知ったのはごく最近、右の写真のように果実がついていることから始めて存在に気付いた次第。果序は３本ほど、若木ですので今年初めて開花したのではないかと思います。来期は花を見たいと思っています。

２－４．ミザクラ

セイヨウミザクラ（左）、シナミザクラ（右）とも 5 月初旬に熟しました。シナミザクラは 5mほどの樹に枝もたわわの状態でしたが、2 日間で１粒もなくなりました。犯人は？

３．ホオノキ

この樹も山中、例えば箕面の才ヶ原林道や才ヶ原池周辺などではごく普通に見られる種ですが、この周辺では庭木としても植えられています。今年は５月 10 日ごろに開花に出会うことができました。花期が短い上に花が新しく展開した枝先に付くので気付かない内に花期が終わっていたようです。今年は蕾を見つけウオチングして来たのでスマホで右の画像を得ることができた。花を見なければ、この樹がモクレン科の種であるとは理解し難いのではないでしょうか。　（基礎講座では”花被片“の説明に例示）

４．ハナミズキ

この樹に付いては多分以前にも記述したと思いますが再掲です。日本からアメリカへサクラを送った返礼に送られて来た樹であることはご承知の通り。

英（米）名では Dogwood、大抵の文献では、この樹の皮を煎じてイヌの皮膚病に使ったからなど尤もらしく書かれていますが、これはウソ。

Dogwood 自体は種名でなく属名（Family）であり、正式な種名は Eastern　Flowering　Dogwood 学名は（*Cornus florida*）。Dogwood の仲間は材が硬くタフなので、太鼓のバチ、小刀やキリの柄等に使われており古くはナイフの柄などにつかったので”Dagger Wood”と言われていたが、何時の間にか訛って現在の Dogwood となったと現地の Field　Guide には記述されています。ワンちゃんとは関係ありません。

なお、この花の花弁のように見えるのは苞（総苞）、苞が花弁のように見えるのは他にも開花始めたヤマボウシや草本のドクダミ。また、タンポポの萼のように見える部分も苞（総苞）です。多くの花（集合花）を包むのが苞、アジサイのように１つの花を持つ花弁状の装飾片は萼です。

なお、ハナミズキは典型的な仮軸型伸長する樹でもあります。

5. キリ

キリ（、学名：*Paulownia tomentosa*）は、シソ目のキリ科[1]キリ属の落葉広葉樹。初夏に特徴的な淡紫色の花を咲かせる花木で知られる。日本における経済的価値は高く、林業の特用樹種であるが、アメリカの国立公園では外来種として駆除の対象。日本では軽くて狂いや割れも少ない材の特性を活かして、高級家具の桐箪笥や、琴、琵琶が作られるのはご承知の通り。前述のホウノキと同様に、花が美しいので庭木としても植栽されるが、花が高所に咲くので写真には納めにくいですね。

キリに関しては、書き出せばキリがありませんが・・・・。キリは伝統的に神聖な木とされ、その葉と花をデザインした紋が知られます。中でも右図のような、花序に付く花の数が 5・7・5 の「五七の桐」と呼ばれる紋が有名。デザインは、右の図のように枝の先に輪生する大きな葉と、頂生する花を紋様化したもの。

足利尊氏や豊臣秀吉などの天下人が好んで用いたため、政権担当者の紋章と言う認識が広まり、日本国政府も**内閣総理大臣の紋章**として利用されています。政府の発行する国際的な書類としてのビザやパスポートなどにも、ワンポイントマークのようにして使われています。また、国際的な場での首相の記者会見などでは、演台に桐花紋が飾られることがあります。また仏教界では曹洞宗が五七桐紋を宗紋としています。

その他、500 円硬貨の表図案。花札では 12 月・鳳凰共に描かれています。（中国の故事による？）

６．ハリエンジュ

ハリエンジュと言うよりは、一般的にはニセアカシア、アカシアと言った方が分かり易い樹木です。和名は枝に棘を持つエンジュからで、勿論庭木などに植えられることはありません。私の近くでは芦屋市の放置林や公園で多く見かけられます。ご承知のように、この種はマメ科であり、根に根粒菌を持ち空気中の窒素を固定する事ができるので荒れ地でも生育します。貧土壌の緑化に使われる他、重要な蜜源植物でもあります。若い花を噛むと確かに甘い。観察会などでは、味わってもらっています。花時にはハナバチやミツバチの姿がよく見かけられます。

７．エゴノキ

エゴノキ（*Styrax japonica*）とはエゴノキ科エゴノキ属の落葉小高木。Japonica などの学名がつくが、日本の固有種でなく、東南アジア、中国、韓国など広く分布する。通常は山林に普通に生育しているが地味、慣れれば赤褐色の幹の特徴や葉の葉脈が透けるように見えることから判別できます。林間ではこの季節多くの花をつけ、下に落ちた花で存在を知ることが多い。花弁は図鑑などでは 5 弁としているが、4 弁、6 弁のものもあります。通常は山の自生種ですが、花を多くつけるので庭木として植えられることも多く、この附近でも数か所で見かけられます。

シニア自然大学校では初期に、名の由来‥**えぐい、果実の皮にサポニンを含み、魚毒として使った。また、冬芽が主芽と副芽をもつこと**など習った記憶があります。

８．スダジイの花

上述のように、色鮮やかな花ではないが、ブナ科のシイの仲間が一斉開花し独特のにおいを漂わせている。右の画像はスダジイの開花、今年展開した枝の下部に雄花花序が多数付き、頂部に雌花花序が 2 本突き出ていることが分かる。雌花などと言えば花弁などを持ちやって来る昆虫を引き付ける仕組みを持っていても良さそうであるが・・・。箕面などのツブラジイの林などでも一斉開花、樹冠が白くなるほどであるが・・・虫媒花と考える方が間違っているのであろうか？図鑑等の記載では、両種とも雄花と雌花の単性花序を形成し、生臭い匂いを漂わせることで昆虫に受粉を頼る虫媒花である。など明記されているが・・。

９．コナラの花

上記のシイ類とは違って4月中旬に開花したコナラの雄花花序（右）と新しく展開したシュートの先近くの葉腋に見られた雌花を挙げておきます。雄花はともかく、雌花は 3 本のメシベのみ何のかざりもありません。こちらは風媒花ですので飾りは不要なのでしょうが・・・。

序に、常緑系のウバメガシの雌花も挙げておきますが、3 本のメシベのみで付属物はありません。

本報は以上としておきます。
なお、8 号に今年の各地のサクラの開花・満開日をまとめましたので興味のある方はご覧下さい。

以上